
=== 日程第4 一般質問 ===

議長（村松 積） 日程第4、一般質問に入ります。

今回は6番、宮嶋清伸君、1番、小池昌人君、3番、金田憲治君、2番、串原寛治君、4番、宮嶋怡正君、以上5名から通告されております。

宮嶋清伸

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、質問を許します。登壇願います。

6番、宮嶋清伸君。

6番（宮嶋 清伸） 6番、宮嶋清伸です。

本年度下條村は、村制施行120周年を迎える記念の年です。そして本日は、議会がCATVにより全村にテレビ放映される記念すべき日となり、そのトップバッターとして一般質問できることは、私にとって光栄なことです。

今回、私は、三遠南信の連携と農業振興について村長のお考えをお聞きします。

まず、三遠南信について、三遠南信における情報の共有化についてですが、私たちは三遠南信というと三遠南信自動車道のイメージが強いです。

三遠南信圏域は人口230万人、工業出荷額13兆円を超え、将来の飯伊地区にとってはこの圏域の連携が不可欠です。しかし、我々は隣接している浜松、東三河について、新聞、テレビなどから情報がほとんど入りません。したがって、イベントや情勢などの状況がお互いに分からないのが現実です。そこでCATVで浜松、東三河の番組を見ることができたり、新聞等で情報の提供が不可欠だと私は考えます。

続きまして三遠南信の相互交流についてですが、行政や各種団体は、三遠南信サミットなどの交流がありますが、民間での相互交流が活発に行われるべきだと考えますが、情報の共有化と合わせ、南信州副広域連合長として村長のお考えをお聞かせ願います。

次に、農業振興について2つ質問します。

まず、魅力ある農業についてお聞きします。

現在の農業生産者の出荷価格は、市場の価格に関係なく、資財、物流経費などを引かれると安定した収入が得ることができず後継者不足の一因となっております。直売をしたく

ても、販路の確保やインターネットでの販売は、小規模経営者や高齢者では難しいと考えます。そこで週1回、休日に年間を通して、刈谷市でトラックの荷台の直売をしたり、インターネットでの直売を行い、生産者にも消費者にもメリットのある魅力ある事業を村が推進したらどうかと考えますが、村長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

最後に遊休農地の活用についてお聞きします。

農林業振興、遊休農地の活用として有志を募り、農事組合等を立ち上げ、村全体で農林業に取り込み、小さな遊休農地も耕し、森林税を生かし獣と人間の境を明確にするため、伐採を行ったりする時期がきていると私は思いますが、村長のお考えをお聞かせ願います。

以上で私の質問を終わります。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） 宮嶋議員の質問にお答えいたします。

まず最初に、三遠南信連携について、情報の共有化ということでございます。

これは今、情報を共有するという事は、非常に現代社会の中では重要なことでございまして、このことについては私も積極的に取り組んでおるつもりでございます。

そこで三遠南信ということでございますけれども、これは「故きを温ね新しきを知る」という意味で、私もこのいきさつを調べてみました。

なんと昭和27年に、この計画が民間から始まったということでございまして、基本的には浜松を中心とした商圈、それから三河、豊橋を中心とした圏域、それから飯田市を中心とした圏域、これトライアングル構想ということで、民間の発想でまず始まったということが私も驚きました。それが昭和27年でございます。

それから驚くことには、また昭和60年ころになると中部経済連合会等が中心となって、これをより推進、推し進めたり積極的に取り組んだわけでございます。

私もこの議会に行ったのが昭和50年でございます、この時分、60年時分に確かに2~3回あの路線を見るということで、おんぼろバスに乗って行ったことがあるわけでございますけれども、当時とてもこんなところに道路ができるなんていうことは考えも及ばなかったわけでございますけれども、その時分に飯田のある業者の方が、浜北市の本当に田んぼのど真ん中に仮事務所を作って、そこで積極的にこの運動に、民間の方でございますけれども、中心的存在で活躍しておった方がおりましたけれども、あまりにも年が経過

しすぎてしまって、「刀折れ矢尽きた」状況で今飯田に帰っておられる。また、今一生懸命やっておりますけれども、そうした先人の努力もあったということを、私たちは忘れてはいけないと思います。

そして民間民間で組み立てた計画の中で、国も動きまして、平成5年ころから矢筈トンネルの開通だとか、それからまたその先の水窪寄りの草木トンネルというのも貫通し、だんだんと具体的なものになってきたわけでございます。そして昨年4月13日ですか、山本天龍峡間7.2キロがいよいよ供用開始になったということでございます。

供用が開始されるということになると、人の交流が非常に盛んでございます。これからさらに、去年も皆さんも行かれたわけでございますけれども、鳳来から稲佐に向けてトンネルも3つももう完遂し、今巻き立て、それからそれにかかわる橋の建設も取り組んでおるわけございまして、あの部分だけ供用されても20分から30分早くなるということでございます。

そうなりますと今までと違って人の交流が盛んになり、それから特に民間企業、例えば今までこの地域も中部圏だけに目を向けておりましたけれども、今度は遠州圏も目を向けられるわけございまして、商品開発だとか、それからそれぞれの取引先とのよく競合、競合というか協議、そして必要なものはお互いに利用し合うということ。

それから幸いなことに豊橋には、愛知科学技術大学というのがございます。これが非常に工業関係に対しては、非常に実力のある学校でございまして、こうしたシステムを使い、それから特に静岡県ではヤマハだとか、カワイだとか、スズキだとか、浜松フォトリックスだとか、大きな企業があるわけございまして、そうした関連の皆さんとまた交流するところにおいて、また一段と進むべきまた道が開けてくるということございまして、人が交流しだすと情報は共有できるということございまして、これと同時にできるだけ先駆けて、もう行政頼みというのは、今の時代はスピードが遅すぎるわけでございます。行政は行政としてそのステージは作るわけでございますけれども、それを民間のこの俊敏な行動力において、大いにまた交流をしていかなければいけないのかなということを感じておるわけでございます。

特に議員もその面では先駆けの方でございますので、一生懸命また頑張ってくださいようお願いいたします。

それから魅力ある農業というお話もありました。

今、なかなか農業も含めて先行き不透明の中でございます、農業もなかなかその最右翼に入るわけでございます。

今日まで農政というのは「猫の目行政」ということで、いろいろ試行錯誤して毎年方向は変わりました。今年もどうも大きな転換、米作において大きな転換があるということを聞いております。

それと同時に、今は国は、何でも大規模農家をどうするか。そして大規模化するにはどうするかということでございますけれども、あれは一般論、最大公約数でございます、この全体的にはなるほどなという、うなずける線もあるんですけども、はたしてこの地域におろしたときに、あれが活用できるかということになると、机上の空論になるわけでございます。

この地域にとっては、やはり大規模化するところは大規模化し、そしてまた細分化した農業の中で、いかに皆がやる気を出していけるかということになると、付加価値のある農業をしなければいけないということで、大量生産、大量出荷、市場原理主義ということになると、本当に実入りというのは大したことはないと思います。そこで地産地消ももちろんやっております。

それから直売も今2つの施設でやっておりますけれども、1つの施設のまだ情報は入っていませんけれども、そばの城に併設しておるあの「うまいもの館」、これは昨年の売り上げ成績は非常に良かったそうでございまして、努力し、またその成果を上げておるということはうれしいことかということと同時に、基本はそこにいくのであらうと思っております。

それと同時に、今このなかなか企業も人を雇わないということになると、その皆さんも本当の意味で土に親しむ、自然に親しむということになると、それべくの農業にし、そしてその皆さんが直販するというようなこと。

それから今、刈谷市との交流もあります。刈谷市のイベントには、イベントのたび下條村も出ておるわけでございますし、それぞれやっておるんですけども、あれ採算がとれるかとれないかということになると、どうしても基本的には赤字ということでございまして、さりとて手をこまねいておるわけにはいかないわけでございますし、刈谷市としてもあの

ハイウェイオアシス、そこに下條村のブースを作っておってくれます。

そのブースの条件としては、やはり大量の、ある程度の大量のものをコンスタントに出せるということでない、「これだけあるで持っていったら次の日はなかった」ということになる、非常に運営する側でも困っておるということでございまして、これももう少し流通関係は一考しなければいけないと思っております。

それから広域としても、今度は刈谷市を含めて広域連合としては、名古屋の覚王山というところ、高級住宅街がありますけれども、そこにアンテナショップをJAと共同で出しております。今1年を経過したところでございますけれども、結構引き合いがあるということでございまして、それらの情報、引き合いの中でどういうものを広域として、どういうものをどの程度作って、どこへ出せばいいかということも、市場原理の別の口としてまた探っておるところでございますので、そんなこともまたひとつご期待いただきたいと思います。

それから遊休地活用ということでございますけれども、これは下條村は、ほかの町村に比べて非常にうまくいっておる例であろうかと思えます。

例えば一番問題であった盆花団地と言われたあの中原でございまして、平成7年よりそば栽培をしております。現在ではなんと52戸、延べ44ヘクタールの栽培をしております、19トンのそばの実収入が得ておるわけでございます。

ご承知のとおり、そば振興のために市価の倍の価格に近い価格で村が買い入れ、そしてそれを基にそばの城でそばを販売しておるということでございます。

今年も来年度予算に500万円のコンバインの補助金を今つけておるところでございまして、これは補助金と合わせて、さらにやる気の出る遊休荒廃地にしないように頑張っております。

それから細野原の観光農園でございまして、これは平成12年2ヘクタール、これ小さいわけでございますけれども、このことにつきましても今栗を植えて、それから栗の間にいろいろなものを植えて、今観光農園としてなかなかお客さんも入ってくれるようになりました。去年実績が1,100名来たということでございます。

このほか教育として、保育園児なんかも招待してもらって、自然に親しむ、また栗のなっておる姿というのを、今の子供というのはなかなか見たことがないそうでございますの

で、そんなことで子供の情操教育にも役だっておると思います。

それから3番目として、三墓の農地でございますけれども、これは17年に2.3ヘクタール、これを栗園に変更いたしました。これは従事者の高齢化等を勘案してやったところでございますけれども、なんと1,200本の栗を植えております。

今年やっと半分くらいとれるようになりました。実はなるんですけれども、今とってはまずいということで、今年半分。それから来年から本格的生産に入るわけでございますけれども、今生産はできるんですけれども、販路が大変でございます。そのために最初の契約から販路は、中津川のお菓子屋さんが全量引き取るということを条件に、今取り組んでおるわけでございまして、これも新しい農業の姿としておもしろい展開を示すであろうと思っております。

それから4番目は中山間地事業の導入ということで、これは国策でございますけれども、22地区、65ヘクタールの農地保全と地域集団が育ちつつあるわけでございます。

それからご指摘のあった里山整備事業でございます。

現在では、森林税導入事業として、県独自の森林税導入事業として、村内3カ所を第1回としてやるつもりでございます。これ入野地域、そして北又地域、阿知原地域で約40ヘクタールの里山整備を今年は重点的にやるわけでございます。

この事業は、森林保全整備事業はもちろんでございますけれども、今問題になっておる鳥獣対策、要するに鳥獣と、人の住むところと山林原野等区別してやらなければいけないということで、これ鳥獣有害対策にも大きな効果が出ると期待しておるところでございます。これは徹底的にやるつもりでございます。徹底的にやるということで、3地区、モデル地区がうまくいくように又皆さんも応援いただきたいということと同時に、環境整備というのは大切でございまして、村としても先駆けて、国道、主要国道の周辺の支障木とそれから風景等を損なわないということで、相当大幅な整備をしておるところでございます。又、それぞれのローカル、地方幹線につきましても、これからその環境整備ということで取り組んでいくつもりでございます。

いずれもまたひとつ難しい時期でございますけれども、ともどもに手を組んでおるのではなくて、真っ正面から前向きにまた取り組んでいくつもりでございます。経験豊かな皆様方のまた陰に陽のご指導ご指摘いただければ幸いです。

以上で答弁とさせていただきます。

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、再質問ありましたら。宮嶋清伸君。

6番（宮嶋 清伸） 村長の言われるとおり、民間が主導でやっていかないとなかなか行政がやると言って付いていってどれだけいいものができるかというのがあります。やはり下條村も民間というか、住民が汗を流して道路整備をしたりとか、そういうことで活気が出てくると思います。

振興課長も新しくなられて頑張っただけと思って期待しておるところですが、冒頭お話ししましたCATVの方で、愛知県と浜松の方の、法律的に難しいというような話がありましたけれど、できたらそういう県外の情報も入るとすごくいいと思うんですけど、それについて村長のお考えを願いたいと思います。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 答弁漏れでございました。

私もCATVがあれば簡単にお互いに情報交換すればいいんですけども、今議員言われましたように、なかなか電波法のこのゾーン作りというのが非常に難しいわけでございます。

今、そうはいつでも段々とということで、もしかしたら思ったよりは早く、この辺はいいんですけども、天龍村だとかそれから売木、根羽、あっちの方が大変でございますので、それらも含めて、できるだけ広義的な対応を今広域としても取り組んでおるところでございますので、ご期待いただきたいと思います。